

# 燕 岳 ・ 常 念 岳 山 行 記 録



燕岳へ

大天荘前で幕営

縦走路を振り返る(常念岳登高路より)

目的地	燕岳・常念岳	期 日	平成21年8月16～17日(日・月) 前夜現地入り：晴れと快晴
山行人	笠原正雄・澄子	特 記	華やかな表銀座コースの縦走。

地 点 名	(着)～(発)	記 事
<b>前日 (15日)</b>		
与 板	午後 2:50 発	お盆の帰りで上越附近から大渋滞。豊科 IC まで高速割引で 1,000 円
豊科駅附近の宿	7:20 着	ビジネスホテル利用。附近の居酒屋で夕食。
<b>第1日目 (16日)</b>		
しゃくなげ荘 登山者用駐車場	午前 5:10 発	乗合いバスに乗る準備をしていると、タクシーが来た。4人集まれば一人 1,300 円で行くと言う。群馬男 2 人と相乗り、4人で登山口へ。バスは 1,200 円
中房温泉登山口	6:20 発	登山口ベンチでおにぎり朝食。登山者で賑わっていた。空は雲が無い。
第 2 ベンチ	7:15～7:25	第 1 ベンチは通過し、ここで休む。
第 3 ベンチ	7:55～8:05	休む。残りのおにぎりを食べる。富士見ベンチは通過 (8:45)。
合 戦 小 屋	9:10～9:30	この手前の小屋迄あと 7 分の表示を過ぎた所で左の樹林が切れ、大天井岳と大天荘が見えた。早速 350 缶一本を買う。燕山荘主催のファミリー登山教室の 34 名 (6～74 歳) が下山して来た。途中で前後した学生隊も上って来た。リーダーらしい小柄の女性の荷重は 20kg だそうだ。持ち上げてみたが俺には無理だ。
燕 山 荘 前	10:30	荘前は賑わっている。上空の雲が日差しを遮ると寒くなる。カッターシャツを重ね着し、ベンチテーブルにザックを置いて山頂へ向かう。
燕 岳 山 頂	11:15～11:25	荘から 25 分で頂。双六から抜戸岳の先の笠ヶ岳が雲の中に見えそうで見えないが同定できる。槍ヶ岳に穂高連峰。鷲羽岳から右に裏銀座縦走コースの稜線が続いている。薬師、立山、剣、そして鹿島槍等。
荘前でランチ	11:45～12:50	ジョッキ生で乾杯。小 600 円、中 800 円也。正油おこわを食べる。同じく大天荘幕営と云う単独若女性と同席する。日差しが戻って暑い。彼女が先行する。
新潟山岳会 阿部会長に会う	午後 1:00	縦走路に入り数分すると、妻の菅笠を見て、「涼しそうだね」と道脇に腰を降ろして休んで居た男が声を掛けてきた。「どこから来た?」「長岡から」「新潟から」。なんと阿部会長ではないか。再会を喜び 3 人並んで写真を撮る。彼は単独行で北鎌尾根上山と言う。
大 下 り の 頭	1:40～1:45	標柱が立っている。大きく降ろされる手前のピークで休む。華やかだった縦走路も行き交う人が徐々に少なくなって来た。
花を見ながら 進 む		ウメバチソウ、ミネヤナギ、ムカゴトラノオ、ミヤマダイコンソウ、コマクサ、イワギキョウ、ミヤマコゴメグサ、ミヤマコウゾリナ、タカネナデシコ、オトギリソウ、タカネヤハズハハコ、etc.
喜作レリーフ	3:15	梯子を降りた右の岩にレリーフ。ランチで同席した単独若女性に追いつく。彼女はハシゴ登降がたどたどしい。山を始めて間もないらしい。
切 通 分 岐	3:20～3:35	3 人で腰を下ろす。少しモヤッているが見渡せる。直進すれば喜作新道、左折し、大天井岳をトラバースしながら登って行く。
大 天 荘	4:00 着	建物の屋根から見えて来た。まずは、幕営受付と生ビール(800 円)2 つ。外のテーブルベンチで飲む。
夕 食	5:15～	テントを張り終えて風があまり当たらない場所のテーブルベンチで夕食。単独若女性ともう 1 人単独男に声をかけ一緒に過ごす。干しカワハギ、ウインナー缶詰、鯖ミソ煮缶、αワカメご飯等。
大天井岳頂へ 向 か う	6:30	10 分程で山頂。雲間に入って行く入りを撮影する。今日歩いてきた道の夕暮れが素晴らしい。7:00 まだ明るいうちにテントに戻る。
就 寝	7:15	すっかり暗くなり寝袋に入る。夜中は三日月に星空、下界の明かりも見える。

第2日目 (17日)

起 床	午前 4:10	4時頃に大天荘の発電機エンジンが始動した。まだ暗いが、テントをたたむ。5時に幕営地附近の小ピークに上がり日の出を待つ。5:05 来光、空は雲一つ無い。振返れば檜の穂先から日が当たり始め、明るみが涸沢へと進んで行く。
朝食を終える	5:50	チーズフォンデ、ポタージュスープ、コーヒー。単独若女性が出発して行く。檜ヶ岳から上高地へ向かうというのが、大丈夫かいな、と余計な心配をする。
大天荘前発	6:00	まだ1張テントが残っている。今日も快晴だが、風を受けてまだ少し寒い。
ヤッケ脱ぐ	6:45	鞍部でヤッケ上衣、カッターシャツを脱ぎ長袖一枚になる。東天井岳はトラバースしている。先に常念岳を見ながら進む。横通岳も頂に上らない。対岸稜線の先にヒュッテ西岳が分かる。涸沢内の建物も見えて来る。
乗越への下り	7:55	小屋が見え、急降下に入る。途中少しの時間樹林帯を通過する。
常念小屋	8:20~9:00	靴を脱ぎ小屋の食堂に上る。2人でジョッキ生一杯。350 缶を追加購入。ぶどうパンを食べる。客は出た後で小屋は閑散としていた。笹団子と水で山頂へ。
常念岳山頂	10:00~10:25	妻のペースが落ちた。蝶ヶ岳への縦走母娘を追い越す。10 数名が居た。少しモヤッテ来たが良く見える。梓川と上高地を見下ろす。蝶ヶ岳ヒュッテも見える。そちらからの縦走者もやって来た。
常念小屋	11:00	もう一度食堂に入り隣の自炊場を使わせて貰う。10200 円の水を買い、餅を焼き、ラーメンを煮る。もう一度ジョッキ生を飲む。
〃 発下山	12:30	小屋を出ようとする救助要請の電話が入った。一ノ沢下山中の夫婦うちの一人が事故とのこと。新潟市秋葉区 57 才と聞いた。足がブラブラしていると云う。骨折である。ヘリの要請がなされた。小屋から救助の者が数人現場へ向かった。
最終水場	午後 1:00~1:05	後から男女若者が降りて来た。20kg 荷重の女子学生を含む数人だ。今晚は常念乗越幕営で水を買うのが惜しいと言う。なんと見上げた根性だ。
胸突き八丁基部	1:20	高巻き道や支沢渡りを終え、急降下で本沢に降りる。その先の沢中の道で、男が左足に包帯を巻き大きな石に腰掛けて救助者と共にヘリを待っていた。背後を通過する際、一声掛けたら、日焼止めクリームを塗った顔がこちらを向いて頷いた。その 20~30m 下で奥さんが、他の上山者にヘリの飛来を伝えるために立っていた。話をすれば中房温泉に車を駐めてあるとのこと。我々と同じコースを歩いたのだ。見舞いと励ましを述べ先へと進んだ。上山隊が上がって来た。センジュガンピ。トリカブト、ヒメシヤジン？
支沢の水を飲む	1:55~2:00	やはり同じコースの東京からの同年代単独女性に追いつく。そして追い越す。
大滝ベンチ	2:30~2:35	この近くまで来た時ようやく救助ヘリの音が聞こえて来た。樹林で機影は見えない。随分時間が掛かるものだなと思った。ベンチに腰掛ける。もう一度雨ドイで導かれた支沢の水を飲む。再び前行女性が追付いて来た。かなりお疲れの様子だ。下山口に息子が迎えに来るそうだ。
山ノ神	3:05	巨木と鳥居と祠。Pまで 0.5 km とある。やはり今回も「笠原」と言う地点は分らずじまい。
ヒエ平 P	3:15 着	常念小屋で 3:30 に予約をしておいたタクシーが待っていた。なんと偶然、昨日しゃくなげ荘から運んで貰った運転手であった。もう一台が待っていたが、遭難夫婦が予約した車であった。すぐに奥さんがやって来た。あとを救助隊に依頼してヘリ到着前に下りて来たようだ。タクシー代はしゃくなげ荘まで 3,780 円。隣の穂高町健康館で入浴。
帰 路	4:30~8:00	穂高から大町方面に進み、オリンピック道路を経て長野 IC から高速通勤割引を利用して帰宅。

10 年前の 8 月に常念岳一ノ沢を単独でピストンした。山頂からの大天井岳へ伸びる稜線は気分が良さそうで、出会った縦走者を羨ましく思った。また、4 年前の秋、妻と燕岳ピストンを試みたが、ガスで展望も無く強い風で燕山荘まで引き返して来た。今回その 2 座を結ぶ縦走を申し分の無い天候に恵まれ、気分良く歩いて来た。

さすがに表銀座とうたわれているだけのことはある。檜、穂高連峰の展望は素晴らしい。また、燕岳山頂から望む黒部の山々から連なる裏銀座、立山、剣岳等はまたまた素晴らしい。いつか行ってみたいと思わせてしまう。

一方、骨折遭難事故の現場に遭遇したが、最近になって山友 tamo さんの読売新道での右手骨折事故もあり、いつ何時自分にも起こりうるかも知れない。他人事とは思わず、十分に注意して山を楽しもうと思う。